

**2024年8月1日（木）17:00～18:00**  
**2025年3月期第1四半期 決算説明会**

**【2025年3月期 第1四半期決算公表（P0）】**

CFOの重田です。

本日は、お忙しい中ご参加頂き誠に有難うございます。

まず私から、2025年3月期第1四半期の経営成績概要についてご説明し、その後、経理部長の栗原より詳細をご説明します。

当四半期においては、米国経済は金融引き締めが継続するも総じて堅調に推移しましたが、地政学的リスクや中国での不動産市場の低迷など、経営環境は引き続き不確定要素が多い状況です。当社はこのような環境下においても、成長投資や資産リサイクルを実行し、事業ポートフォリオ良質化の取組みを順調に進めています。

**【経営成績サマリー（P4）】**

当四半期の経営成績サマリーについてご説明します。

基礎営業キャッシュ・フローは前年同期比401億円減少の2,158億円の獲得、四半期利益は前年同期比232億円増益の2,761億円となり、想定通りの進捗と評価しています。

また、5月に公表した2,000億円を上限とする自己株式取得の内、6月末までに768億円を実施しました。本日、適時開示で7月に実施した金額をお知らせしましたが、取得期限である9月20日までに予定通り完了を見込みます。

**【事業計画に対する進捗率（P5）】**

こちらは事業計画に対する各セグメントの進捗率を示したものです。

第1四半期においては、全体として事業計画に対して順調に進捗しました。第2四半期以降に複数セグメントでの貢献拡大を見込んでおり、例えばエネルギーセグメントでは、下半期にLNG事業の貢献を見込みます。生活産業、次世代・機能推進セグメントでは、季節性要因や利益計上のタイミングにより、第2四半期以降に本格貢献を見込みます。

### 【キャッシュ・フロー・アロケーション (P6)】

キャッシュ・フロー・アロケーションの実績についてご説明します。

当四半期においては、中期経営計画に沿った成長投資、及び大型案件含む資産リサイクルを着実に実行しました。

キャッシュ・インは、基礎営業キャッシュ・フロー2,160億円と、パイトン発電事業やVLI一部売却などの資産リサイクル2,440億円を合わせて、4,600億円となりました。

一方、キャッシュ・アウトは、投融資2,530億円と、自己株式取得770億円を合わせて、3,300億円となりました。

なお、パイトン発電事業の売却完了に伴い、気候変動対応関連で掲げる、2030年までに発電事業ポートフォリオにおける再生可能エネルギー比率を30%超とする目標を前倒しで達成することができました。

引き続き、各事業での脱炭素取組みを進めると同時に、ポートフォリオ入替えを進め、GHG排出量の削減に努めて参ります。

### 【成長投資の進捗 (P7)】

成長投資の進捗についてご説明します。

3つの攻め筋それぞれにおいて、信頼を長期間にわたり培ったパートナーとの協業や事業を通じた経験の蓄積、及び産業を跨いだ機能や知見の組合せを活かした、当社ならではの複数の成長投資を実行、意思決定しました。当社が強い事業領域のさらなる強化と事業ポートフォリオの良質化が進捗しています。

この内、UAE Ruwais LNG プロジェクトについて次のスライドでご紹介します。

### 【UAE Ruwais LNG プロジェクトの最終投資決断 (P8)】

先月の適時開示の通り、50年来のLNG事業のパートナーであるアブダビ国営石油会社ADNOCが手掛けるRuwais LNGプロジェクトに、国際エネルギーメジャー3社と共に参画しました。本プロジェクトへの参画により、LNG事業ポートフォリオと物流ポートフォリオの双方が強化され、長期安定収益基盤の拡充につながります。

具体的には、当社が参画する LNG プロジェクトは 8 カ国 11 プロジェクトとなり、当社持分生産能力は 12%増加の年間 9 百万トン規模になります。LNG 物流においては、取扱数量が年間一千万トン規模となります。この数量は日本の年間輸入量の約 15%に相当します。

当社事業ポートフォリオにおいて、LNG は収益力が高い事業領域の一つです。Ruweis LNG プロジェクトにおいては、当社は LNG 事業からの配当収入に加えて、物流事業を通じアップサイドを追求いたします。強い領域をさらに強くすべく、2028 年の生産開始に向け、パートナー各社と連携して参ります。また、本プロジェクトではクリーン電力を活用した低炭素 LNG を生産予定であり、当社の脱炭素社会の実現に向けたメニューの拡充にもつながります。

#### 【新規案件の収益貢献開始時期 (P9)】

先ほどご説明したように、厳選した成長投資を実行しています。こちらのスライドに太字で示した案件は、すでに収益貢献を開始しているものです。

ご覧の通り、当四半期に投資した案件の多くが既に収益貢献を開始しており、早期収益貢献と長期の収益基盤構築に向けた成長投資をバランスよく実行しています。

#### 【株主還元方針 (P10)】

2024 年 7 月 1 日を効力発生日として 1 株を 2 株とする株式分割を実施いたしました。25 年 3 月期の年間配当は、前期比 15 円増加の 1 株当たり 100 円とし、これを累進配当の下限とします。キャッシュ・インの拡大に応じて、安定性と機動性を兼ね備えた株主還元を拡充する方針から変更ありません。

以上で、私からの説明を終わり、続いて経理部長の栗原より、四半期業績の詳細をご説明します。

= 経理部長パート =

#### 【経営成績の詳細 (P11)】

経理部長の栗原です。

それでは、経営成績の詳細についてご説明します。

#### 【基礎営業キャッシュ・フロー：セグメント別前年同期比 増減要因 (P12)】

先ず、基礎営業キャッシュ・フローの前年同期比増減について、セグメント別に

ご説明します。

当四半期の基礎営業キャッシュ・フローは、前年同期比 401 億円減少の 2,158 億円の獲得となりました。

金属資源では、29 億円減少の 882 億円の獲得となりました。

エネルギーでは、26 億円減少の 527 億円の獲得となりました。

機械・インフラでは、資産リサイクルに伴う税金増、持分法関連会社からの受取配当減少を主因に、358 億円減少の 244 億円の獲得となりました。

化学品では、Novus における利益率改善を主因に、49 億円増加の 252 億円の獲得となりました。

鉄鋼製品では、5 億円減少の 20 億円の獲得となりました。

生活産業では、関連会社配当減少と創薬支援ファンドにおける公正価値評価損を主因に、145 億円減少の 70 億円の獲得となりました。

次世代・機能推進では、4 億円増加の 75 億円の獲得となりました。

その他の要因として、各セグメントに賦課しない経費・利息・税金を主因として 88 億円の獲得となりました。

#### 【四半期利益：セグメント別前年同期比 増減要因 (P13)】

次に、当四半期利益の前年同期比増減についてセグメント別にご説明します。  
当四半期利益は、前年同期比 232 億円増益の 2,761 億円となりました。

金属資源では、26 億円増益の 805 億円の利益となりました。

エネルギーでは、ガス価格下落を主因に、75 億円減益の 192 億円の利益となりました。

機械・インフラでは、パイトン及び VLI の一部売却に伴う資産リサイクル益を主因に、734 億円増益の 1,260 億円の利益となりました。

化学品では、シンガポール漢方薬事業 Eu Yan Sang の FVTPL 関連益を主因に、27 億円増益の 182 億円の利益となりました。

鉄鋼製品では、4 億円増益の 60 億円の利益となりました。

生活産業では、前年同期のエームサービスの公正価値評価益の反動を主因に、463 億円減益の 140 億円の利益となりました。

次世代・機能推進では、19 億円減益の 62 億円の利益となりました。

その他の要因として、各セグメントに賦課しない経費・税金・利息などにより 60 億円の利益となりました。

#### 【四半期利益：要素別前年同期比 増減分析 (P14)】

ここでは、当四半期利益を前年同期と比較し、その増減を要素別にまとめています。

「基礎収益力」は、PTL の減益、LNG 配当減、食料関連トレーディングの減益、売却したパイトン発電事業、Kaikias 油田事業からの利益取込みが無くなったことなどを主因に、合計では約 190 億円の減益となりました。一方で LNG 物流や新規事業、船舶事業、Novus のターンアラウンド、IHH の業績伸長、及び化学品トレーディングなど、多くの増益要因もありました。なお、ここで言う新規事業とは、モビリティ・タンパク質・機能性食品素材を中心とした、早期に収益貢献を開始している事業を指します。

「資源コスト・数量」は、鉄鉱石事業における販売数量増を主因に、約 50 億円の増益となりました。

「資産リサイクル」は、パイトン、VLI の売却益を主因に約 760 億円の増益となりました。

「市況・為替」は、商品価格の下落により、原油・ガスで約 70 億円、銅他で約 50 億円など、計約 160 億円の減益となりました。為替は、円安を主因として約 230 億円の増益となりました。

「評価性/一過性要因」は、前年同期の反動を主因に約 460 億円の減益となりました。

**【2024年6月期末 バランスシート (P15)】**

当四半期末のバランスシートについてご説明します。

24年3月末と比較して、ネット有利子負債は0.1兆円増加し、3.5兆円となりました。一方、株主資本は0.4兆円増加の7.9兆円となりました。この結果、ネットDERは0.44倍になりました。

以上をもちまして、私の説明を終わります。